事務事業評価表

1．基本事項

作成日 令和05年06月23日(金)

事務事業	指揮活動支援事務		担当課	花園消防課	担当係	花園消防署	管理番号	61211
総合計画 大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち	事業区分	■ 自治事務		□ 法定受託事務		
総合計画 中項目	1	備えができ安全・安心なまちづくり	根拠法令 個別計画等	・消防法				
総合計画 小項目	2	消防・救急体制の充実						
主要プロジェクト								

項目	内容
事業概要	平成１７年６月に消防力の基準が改正、全国の消防署に指揮隊を配備するよう指針が示された。当市消防本部では、平成２０年度に警防課へ指揮隊１隊を配置し、平成２４年度からは、深谷消防署及び花園消防署の両署に指揮隊を配備し、災害活動時における安全管理および二次災害発生防止を図るとともに、円滑、効果的な部隊運用を推進する。
目的 ※何のために	災害活動時の安全管理の確保と、円滑かつ効果的な活動を推進し、市民の安全、安心を守る。
対象 ※誰・何を対象に	市民の生命、身体及び財産。
手段 ※どのように	訓練及び研修会を実施する。
成果 ※何を求めるか	災害活動時の職員受傷事故ゼロを目指す。
執行体制	■職員 □一部委託 □全部委託 □指定管理 □市民ボランティア □NPO等 □その他（ ）

事務事業を構成する予算事業

区分	款	項	目	細事業名	前年度決算額（円）

本事業の主な業務

・指揮隊災害出場統計の作成	・
・指揮支援活動業務	・
・訓練及び災害活動時の安全管理	・
・災害活動技術の調査研究	・
・指揮資器材の維持管理業務	・
・各種訓練の立案、調整、実施に関する業務	・

2．事業費（投入コスト）

単位：円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年度別計画							
事業費	予算（現額）	0	0	0	0		
事業費	決算額	0	0	0	0		
財源内訳	国支出金	0	0	0	0		
財源内訳	県支出金	0	0	0	0		
財源内訳	地方債	0	0	0	0		
財源内訳	他特定財源	0	0	0	0		
財源内訳	一般財源	0	0	0	0		
人件費	従事職員数（人）	0.10	0.10	0.10	0.10		
人件費	人件費相当試算※	776,192	786,956	819,639	819,639		
総事業費試算		776,192	786,956	819,639	819,639		

※　人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

３．評価指標

区分	指標名		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値の算定根拠/実績値の出所	目標値/実績値							
	実績値の算出式								
活動指標１	指揮隊出場件数（暦年）	目標値	件						
		実績値		95.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所	指揮隊が出場する２隊以上の活動事案での出場件数/出場件数							
	実績値の算出式								
活動指標２	訓練・研修回数	目標値	回	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00
		実績値		12.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所	年間訓練計画に基づく目標値とする。（実施回数を詳細に計上。）　／　実施回数							
	実績値の算出式								
活動指標３	資器材点検実施率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所	１００％の資器材点検を目標とする。　／　実施日／３６５日×１００							
	実績値の算出式								
成果指標１	資器材常時使用可能率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所	車載されている全資器材の常時使用可能率。　／　使用可能数／全資器材×１００							
	実績値の算出式								
成果指標２	二次災害事故防止率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所	指揮隊が出場する災害活動での職員の二次災害事故防止率。　／　無受傷事故件数／全件数×１００							
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								

４．観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。

（１）事業達成度評価

事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。
（評価基準）（A:達成している　B:おおむね達成している　C:達成していない）

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	年間訓練計画に基づき、計画通り訓練を実施することができた。また、車両及び車載資器材を通年、点検することができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	車載されている全資器材の通年使用可能率を１００％達成することができた。また、指揮隊が出場した災害において、職員の二次災害事故防止率を１００％達成することができた。
		評価者	指揮係長　加藤　学・西村茂幸

（２）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
（評価基準）（A:効率的である　B:高める余地あり　C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	現場先行型指揮要領を確立したことによって、早期に災害実態を把握し、効率的で効果的な筒先配備等の指示を実施できた。また、災害現場の状況を現場映像伝送装置（スマートフォンタイプ）を使用してリアルタイムに指令センターへ情報共有を行ったほか、大規模火災・爆発物災害対応講座のWeb受講や、Web会議システムを活用した両消防署指揮係による会議の開催によって、情報の共有及び知識、技術の向上を図ることができた。
		評価者	指揮係長　加藤　学・西村茂幸

５．前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	現場先行型指揮要領を確立することで、早期に災害実態を把握し、的確な筒先配備等の指示を行い、更なる放水時間の短縮や延焼拡大を防ぎ被害の軽減を図る。また、災害現場での混乱を生じさせないよう活動要領を全署へ周知させ、連携訓練を実施していく。災害を最小限に止めるため、活動に必要な警防計画を作成し、計画に基づいた対応訓練を実施する。
達成状況及び その効果	現場先行型指揮要領を確立し各署と連携訓練を行ったことで、効率的で効果的な現場活動を実施することができたほか、災害実態の早期把握によって、災害現場での職員の受傷事故ゼロを達成することができた。また、これまで災害種別ごとに複数作成されていた初動対応マニュアルを対象物（建物）ごとの署警防計画に集約することができたため、災害時の活用頻度を一層高めることができた。

６．所属長評価（今後の方向性）

事務事業	指揮活動支援事務	担当課	花園消防課	担当係	花園消防署	管理番号	61211

□ ①拡充，重点化（コスト投入）
□ ②現状のまま継続
■ ③見直して継続 →
□委託化等の検討
□成果向上のための改善
■効率化のための改善
□事業規模の縮小
□他の事務事業と統合
□ ④目的達成による終了
□ ⑤廃止を検討

評価の内容説明

指揮隊は、災害活動時における安全管理や各隊に対する円滑で効果的な活動を指示するうえで欠かすことのできない部隊である。一方で、指揮隊は深谷消防署、花園消防署の２署に配置され、車両や資機材の重複投資や人員が分散配置されている状況にあり、効率化を図るための検討が必要である。

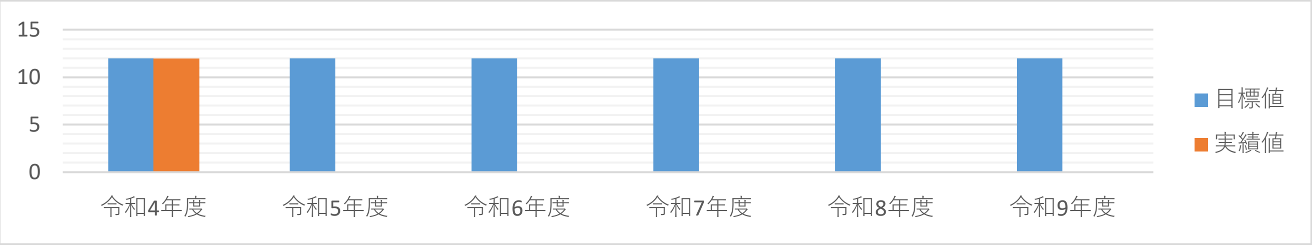
評価者	花園消防署長兼花園消防課長　小暮　誠

上記を実施するための具体的な取組内容は？

７．改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	現場先行型指揮要領による効果を更に高めるため、指揮隊の出場方法等の見直しを行い、指揮隊による情報収集の迅速化と、職員の受傷事故防止のための安全管理を徹底する。また、資機材や人員配置に関する課題を整理し効率性を高めるための検討を行う。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	消防本部の組織体制に応じて、出場計画を中心とした各種計画の見直しを行うとともに、機動的で高機能な指揮隊を構築させる。

８．評価指標グラフ

区分	活動指標１	指標名	指揮隊出場件数（暦年）

区分	活動指標２	指標名	訓練・研修回数